

### ■ (3) 新聞記者も欲しい一等賞！

運動会のかけっこ、合唱コンクール、球技大会、模擬試験… 子供たちはさまざまな分野で「一等賞」や「金賞」を目指して切磋琢磨する。新聞記者も同じだ。

記者が目指す一等賞は「特ダネ」。広辞苑には「新聞などで、その社だけが特に手に入れた記事材料。スクープ」とある。厚生労働省の元局長が裁判で無罪となった郵便不正事件で、「エース検事」が証拠品を改ざんしていたとされる事件を暴露した朝日新聞の記事（9月21日付朝刊）がまさにそうだ。衝撃的な内容で、ほかの新聞やテレビも追随した。

特ダネの端緒は、インターネットなどで簡単に見つけられるようなものではない。基本動作は「夜討ち朝駆け」。深夜・早朝に相手の自宅を訪問し、秘密情報をこっそり聞き出すとする伝統的な手法だ。記者は睡眠時間を惜しみながら、貴重なネタを探し続けている。

ようやく書いた特ダネも、「どの記事なの？」と聞かれることがある。大きな見出しに加え、記事の書き出し文の末尾に注意！ 「…ことが〇〇新聞の取材で分かった」となっていれば、ほぼ間違いない。その表現で、一等賞を「自慢」することがほとんどだから。(山)